

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	学校における教育活動を人権教育の視点で推進する
----------	-------------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

人権教育は、学校教育において、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じ、教育活動全体を通じて推進されるものである。

本校においても、「人権教育全体計画」「人権教育年間指導計画」を作成し、取組を行っている。しかし、これらの計画が絵に描いた餅になっていないか、人権教育を通じて育てたい資質・能力が全教育活動の中できちんと整理できているのかを検証し、学校における人権教育の日常的な活動を推進していきたい。

そのためには、人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]に示された内容を理解するとともに、まず、日々の指導を行う教職員の人権感覚を磨くことで子どもの人権感覚が磨かれると考え、標記テーマを設定する。

○調査研究の概要

学力の向上と人権感覚の育成を人権尊重の視点に立って実践していく。

- 人権が尊重される学習活動づくり（学びあい…学力向上・教科指導等）
- 人権が尊重される人間関係づくり（支えあい…道徳・特別活動・生徒指導等）
- 人権が尊重される環境づくり（つなぎあい…学級経営・特別活動等）
- 自分を大切にするとともに他の人を大切にする（Iを大切に…人権感覚）

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

和歌山県岩出市立山崎小学校

○これまでの研究指定等の状況

新規

○学級数

26学級（うち特別支援学級：6学級）

○児童生徒数（R.6.2.1）

全児童数：667名

○URL

<https://www.city.iwade.lg.jp/sc-yamasaki/>

○指定理由

山崎小学校は、全校児童664人と県内有数の規模の大きい小学校である。校区内では急激に宅地開発が進んでおり、人の流入も盛んである。交通量の増加や店舗の進出等、都市化による環境の変化が児童にも影響を与えている。従来の農村らしい素朴な面が薄れ、集団意識がうすく自己中心的な行動をする児童もいる。

令和4年度より教育目標が刷新され、『なりたい自分に向かって、学び挑戦し続ける人の育成—「あい」のある、「あい」を大切にする学校—』となった。「あい」という言葉は、人と人の繋ぎあい、対話のある授業での学びあい、豊かな心を醸成する支えあい、健康・体力の向上を目指す高めあい、自分の生命を大切にするI（あい）を大切にするという重点目標へとつながっている。この教育目標の下、教職員が一丸となって取り組んできた素地を本事業と連携させることで、高い人権感覚をもった児童を育成することが可能と考え、研究校に指定する。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与

①子供	◎
②女性	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧-1 HIV 感染者等	
⑧-2 ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他 ()	

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

本校では、学校教育目標を「なりたい自分に向かって、学び挑戦する人の育成ー「あい」のある、「あい」を大切にする学校ー」と定め、キーワード「あい」のある学校に向け、日々の教育活動に取り組んでいる。重点目標として、①繋ぎあい…学校（子ども）を核とした結びつき ②学びあい…確かな学力の向上 ③支えあい…豊かな心の醸成 ④高めあい…健康・体力の向上 ⑤I（あい）を大切にする … 自分の生命を大切にする（自分を大切にすることで、他の人を大切に出来る人）を設定した。

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる、人権教育の推進は「あい」のある学校づくりに必要不可欠である。そこで、今まで取り組んできた、授業研究や学校行事等を人権尊重の視点で関連づけるなどしていくことで、日常的な人権教育が充実できるよう取り組んでいく。

そのためには、授業を大切にしながら道徳や特別活動、体験活動等を意図的・計画的に実践していけるよう努める。なお、研究組織は、従前本校で取り組んできた4部会（授業改善、学力向上、学習環境、情報推進）と各学年・ブロックをベースに人権教育部会を充実させ、有機的に関連づくよう組織に位置づける。

【仮説1】

児童が安心して学べる環境や風土をつくり、支えあい・高めあう仲間づくりを推進することで、児童はもっている力をのびのびと発揮することができるようになり、自他の生命を大切にし、自尊感情や自己肯定感を高めることができるであろう。

【仮説2】

学びあいのある授業（つながり、学び合う授業）を充実させることで、児童が自分の考えをもち、「学びたい」「話したい」と思う学習課題を追求し、活発な話し合いを実現することで、対話的で考えが深まる授業を創ることができる。

【仮説3】

人権感覚を身につけ、表現する力を育て、学習課題の解決や身のまわりにある人権課題を自分事として考えることで、課題の解消やよりよい人間関係を築くための行動化・実践化へとつなげることができるであろう。

○実施方法

①【理論】

人権教育は、人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤として、意識、態度、実践的な行動力など様々な資質や能力を育成し、発展させることを目指す総合的な教育であることから、まず、我々教員の人権教育についての理解を深めるための研修を実施した。大阪多様性教育ネットワーク 共同代表 土田 光子 氏 を2度お招きした。1回目

は、「人権教育を通じて育成したい資質・能力」をテーマに、「自分を解放するための人権学習」の演題で講演等実施した。2回目は、「同和（部落）問題学習」をテーマに「部落問題学習に取り組むことの意味」について講義いただいた。

次に、先進校から学び本校に還元するため、前年度までに人権教育研究指定校事業の研究指定を受けた学校を視察した。

東京都台東区立石浜小学校（研究主任）、京都市立藤ノ森小学校2回（校長、教頭、研究主任、人権主任、学年主任等のべ7名）、大阪府池田市立ほそごう学園（校長、研究主任、学年主任）に視察訪問し、訪問先では、人権教育の取組についての説明や授業公開、研究協議等に参加した。後日、学び合い通信等で伝達講習を行い本校の取組の参考とした。

また、人権教育を通じて培われるべき資質・能力については、次の3つの側面（1. 知識的側面、2. 価値的・態度的側面及び3. 技能的側面）から捉えることができるなど、人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]及び補足、和歌山県教育委員会作成の人権学習のための手引き等の資料を参考に校内研修に取り組んだ。

②【実践】

1. 授業研究～対話と人権の視点から～

以前より研究している「対話」の視点に加え、新たに「人権」の視点を取り入れ、主に話し合い活動を中心に、全員が参加し、考えを広げ、深められる授業の実現を目指して研究を進めた。また、研究授業を年間3回、さらに1人1公開授業(全教員)を実施し「対話」と「人権」の視点から研究協議を行なった。授業者は人権に関するチェックシートを用いて、実践した授業について振り返りを行なった。

2. 異学年交流～各学年の学びをつなぐ～

前年度まで、コロナウイルス感染防止の観点から異学年間の交流の機会が減っていた。そこで、教科の学習を生かした異学年交流の機会を増やした。

■ 2年生…生活「学校探検」（2年生・1年生交流）

入学して間もない1年生のために、2年生が学校を案内した。1年生は、学校生活への期待や安心感に、2年生は上級生としての自覚につながった。

■ 3年生…国語「はんで意見をまとめよう」（3年生・1年生交流）

「1年生が本を好きになるように」という目標をもって、3年生が1年生に読み聞かせを行なった。相手意識をもってグループで話し合い、本を選んだり、読み方の工夫を考えたりすることができた。

■ 4年生…特別活動「2年生とお楽しみ会をしよう」（4年生・2年生交流）

2年生とのお楽しみ会を計画した。実際に2年生に喜んでもらうことができ、達成感と学年間の交流を深めることにつながった。

■ 5年生…国語「この本、おすすめします」(5年生・2年生交流)

5年生が2年生におすすめの本を選び、紹介した。2年生を意識して、話し方や紹介文を工夫できた。また、交流を通して高学年としての自覚をもつことができた。

■ 6年生…国語「みんなで楽しく過ごすために」(6年生・3年生交流)

3年生とのレクリエーションについて、グループで計画から実施まで行なった。3年生の立場に立って、全員が楽しめることを目指して話し合いを進めることができた。

■ 6年生…総合「THE 修学旅行」(6年生・5年生交流)

修学旅行で訪れた場所や見学したものについて、タブレットでスライドを作成し、5年生に発表した。修学旅行の学びをさらに深めると共に、5年生の修学旅行への期待を高めることができた。

3. 人権感覚を高める活動

学校行事や各教科の学習を通して、人権感覚を高める様々な活動、指導を行なった。また、ゲストティーチャーなど、外部の機関とも連携を行ないながら、人権感覚を身につけられる機会の充実に努めた。

■ 1年生を迎える会

児童会が中心となって、6年生による集会「1年生をむかえる会」を行なった。1年生の楽しんでいる姿を見て、6年生は最高学年としての自覚を改めてもつことができた。

■ 命の授業

2・4・6年生を対象に、岩出市の保健師さんに「命の授業」を行なっていただいた。命の誕生や男女の身体の違いなどを体験的に学習し、一人一人がかけがえのない存在であると改めて実感することができた。

■ 4年生 総合「福祉について学ぼう」

福祉についての調べ学習を行なった。また、車いす体験、アイマスク探検、高齢者疑似体験などの体験的な活動も行ない、障害のある人や高齢者の気持ちに寄り添いながら学習を進めることができた。

■ 手話教室

5年生を対象に手話教室を行なった。実際に手話を間近で見たり、障害のある人の声を聞いたりすることで、福祉について考えを深めることができた。

■ 人権作文、人権ポスターへの応募

全学年で人権作文、もしくは人権ポスターに取り組んだ。発達段階に応じて人権に関する読み聞かせや、動画視聴を行ない、「人権問題」を身近な課題として捉えながら考えることにつながった。

■ なかよし集会

児童会が中心となって、11月になかよし集会を実施した。事前に、みんなが仲良く過ごせるための「なかよしスローガン」を各クラスで話し合った決めた後、代表委員会(児

童会・委員長・各クラスの学級委員)で山崎小学校のスローガンを決定した。

なかよし集会では、なかよしスローガンの発表と、5年生の代表児童による人権作文の発表が行なわれ、人権について考えを深めることができた。

4. 人権感覚を高める環境づくり

児童同士の認め合いや、全員が授業に参加できることにつながるよう教室や校内の掲示を作成した。

- 道徳のあしあと…道徳の学習内容と児童の振り返りを掲示
- いいね！ノート…児童の自主学習ノートを教室や職員室前に掲示
- なかよしスローガン…各クラスで話し合って決めた「なかよしスローガン」を掲示
- 集会の振り返り…集会の様子や、児童の振り返り、児童会の感想などを掲示
- ハンドサイン…全員が授業に参加できるように、ハンドサインを掲示
- 対話に関する掲示…話型や対話に関するチェックシートなどを発達段階に応じて掲示

③【成果物等】

○人権教育全体計画、年間指導計画※別添参照

4. 検証・評価・改善・普及

①【理論】

人権教育は、全教育活動を通じて取り組んでいく必要があることは、誰もが認識している。しかし、個々の教員の人権感覚は、経験や学び等の履歴により異なる。そこで、教職員の人権感覚を磨くことを出発点とし、講師を招聘しての講義や先進校視察を通じて学んだことを伝達することで、同じ方向性で研究に取り組むことができた。

人権教育の指導方法の基本原則として、児童生徒の「協力」、「参加」、「体験」を中核に置くことを確認し、日々の教育活動の中で、取組をすすめていくこととした。

②【実践】

○授業研究（学力向上）…教科指導（話し合い活動を重点に）

③【数値検証】

a【自分には、よいところがある】

そう思うと回答していたのは、全体の64%であった。（低学年78%、中学年62%、高学年51%）学年が上がるにつれて、自分を厳しく見ている傾向がある。しかし、高学年は6月から11月にかけて平均6ポイント向上していた。

b【友達のよいところを知っている】

87%の児童は、友達のよいところに気付いているようであった。この結果については、低学年79%、中学年88%、高学年92%と学年が上がるに連れてたくさんの良さを理解していることが分かった。

c【困っている人を助けている】

児童の68%がそう思うと回答していた。この結果については、6月から比べると平均3ポイント下がっている。そして、総合的な学習の時間に人権課題に取り組んだ学年が大きく下がっていた。そのことから、困っている人に対する意識が高くなり、まだ出来ていないと感じているようであった。（低学年77%、中学年69%、高学年59%）

d【ちがう学年の友達と 関わる機会がある】

前年度まで、コロナウイルス感染防止の観点から異学年間の交流の機会が減っていた。そこで、教科の学習を生かした異学年交流の機会を増やした。その結果、79%の児童がちがう学年の友達と関わる機会があると感じているようであった。特に、遊んでもらったり、教えてもらったりした1年生は97%感じていた。しかし、グループ学習を通して交流した時は、中心になって関わった子とそうでない子の差がでてきているようである。

e【あいさつをしている】

全体の81%があいさつ出来ているようである。数値は平均3ポイント下がり、児童はあいさつに課題があると感じている。児童会や委員会でも取り組もうと声が上がって活動していた。

f【学校でかつやくできている】

6月と11月と比較して、5年生以外はあまり変化がなかった。45%と数値はあまり高くなかった。(5年生は20ポイント上昇)そして、「自分には、よいところがある」の結果と似ているようである。低学年72%、中学年43%、高学年30%と学年があがるにつれ数値が下がる傾向がある。そのことから、発達段階における違いを考慮しつつも、自分自身を肯定する気持ちを育てたい。

5. 人権教育に係る年間指導計画

(別添1) 人権教育に係る年間指導計画

1 学年 人権教育年間指導計画例 変更版 ※ ～付け足す単元 一削除する単元

小学校	1 学期		2 学期		3 学期	
各教科	国	なんていおうかな	ともだちのこと、しらせよう		ききたいな、ともだちのはなし いいこといっぱい一年生	
	算					
	生活	いちねんせいになったよ ・なかよくあそべるかな がっこうともだち ・いくぞ!がっこうたんけんだ <u>げんきにそだてわたしのはな</u>	<u>いきもの大ずき</u> ・ <u>みつけたことをしようかいしよう</u> ひろがれえがお ・みんなにえがおをひろげよう ・どうしたらよろこんでもらえるかな		<u>むかしからのあそびをたのしもう</u> もうすぐ2ねんせい ・あたらしい! 年生をむかえよう	
	音	<u>セブン ステップス チェッチェッコリ</u>	おおなみなみ おちやらかほい		とんくるりん ばんくるりん	
	図	<u>しぜんとなかよし</u>	<u>いろいろならべて</u>		こころのはなをさかせよう	
	体	表現リズム遊び	かけっこ・リレー		鬼遊び ボール投げゲーム	
	道徳	はしのうえのおおかみ	<u>ダメ</u> <u>ぼくとシャオミン</u> <u>こころはっぱ</u> <u>はなばあちゃんが わらった</u>		いのちがあってよかった <u>いたずらがき</u>	
特別活動	学級活動	きもちのいいあいさつ	ゲーム 本に親しもう		かんしゃの気持ちをあらわそう	
	児童会活動	一年生を迎える会	人権集会 なかよし集会		6年生を送る会	
	学校行事	入学式 春の遠足				

2 学年 人権教育年間指導計画例 変更版 ※ ～付け足す単元 一削除する単元

小学校	1 学期		2 学期		3 学期	
各教科	国	スミマー	お手紙		スーホの白い馬	
	算					
	生活	新しいこといっぱい <u>1年生をむかえよう</u> <u>命の授業</u>	<u>とびだせ!町のたんけんたい</u> <u>命の授業</u> もっと知りたい たんけんたい		これまでのわたし これからのわたし <u>みんなて楽しくあそぼう</u>	
	音	メッセージ	こぎつね		こぐまの二月	
	図	人権ポスター	いろいろもよう		かぶってへんしん	
	体	表現リズム遊び	リレー		ボールけりゲーム	
道徳	<u>くまんのたからもの</u> <u>だって おにいちゃんだもの</u>	<u>燕のともだち</u> <u>おれたものさし</u> <u>かっぱ わくわく</u>		<u>ゆきひょうのライナ</u> <u>たんじょうびカード</u>		
特別活動	学級活動	であいの場づくり 友だちはっけん	夏休みの思い出を話そう 気持ちをつたえよう		こんなことができるようになったよ	
	児童会活動		人権集会 なかよし集会		6年生を送る会	
	学校行事	入学式 春の遠足				

3 学年 人権教育年間指導計画例 変更版 ※ ～付け足す単元 一削除する単元

小学校	1 学期	2 学期	3 学期	
各教科	国	よく聞いて、じこしようかい 気持ちをこめて「来てください」 もっと知りたい、友だちのこと	わたしと小鳥とすずと ちいちゃんのかげおくり 食べ物のひみつを教えます はんで意見をまとめよう	モチモチの木
	社	わたしたちの住んでいるところ	店ではたらく人びとのしごと 工場ではたらく人びとのしごと	昔の道具と人々のくらし 昔からつたわる行事
	算			
	理	生き物をさがそう チョウを育てよう	こん虫のかんさつ	
	音	友だち	おかしなすきなまほうつかい	エーデルワイス
	図		へんしんだんボール	てこぼこさん集合 みんなでオンステージ
体	かけっこ・リレー	ボートボール	サッカー	
道徳	ヌチヌチスズジ しょうたの手紙 いいち、にいいち、いいち、にいいち 三つの国	いただきたいのち ぼくのおばあちゃん 耳の聞こえないお母さんへ	じゃがいもの歌 ひみつの手紙	
総合的な学習	校区たんけん ・校区地図から特徴を見つけてまとめよう	店ではたらく人びとについてまとめよう お店見学	昔のくらしの様子や移り変わりについて調べてまとめよう	
外国語活動				
特別活動	学級活動	自己紹介をしよう	友だちのいいところを伝え合おう	おわかれ会をしよう
	児童会活動		人権集会 なかよし集会	6年生を送る会
	学校行事	春の遠足		

4 学年 人権教育年間指導計画例 変更版 ※ ～付け足す単元 一削除する単元

小学校	1 学期	2 学期	3 学期	
各教科	国	聞きとりメモのくふう 一つの花	新聞を作ろう 感動を言葉に	自分だけの詩集を作ろう
	社	命とくらしをささえる水	よみがえらせよう、われらの広村 自然災害から命を守る	わたしたちの県のように
	算			
	理	夏の生き物	ヒトの体のつくりと運動 秋の生き物	冬の生き物 生き物の1年間
	音	楽しいマーチ	茶色の小びん	ジッパー・ディードゥーダー
	図	人権ポスター	自分の思いを絵にのせて へんでこ山	作品バッグ
体			育ちゆくわたし	
道徳	なにかお手ついでできることはありますか？ わたしの見つけた小さな幸せ いっしょになって、わらっちゃだめだ	バルバオの木 お母さんの請求書	ありがとうの言葉 大きな輪はがき 点字メニューにちょうせん 世界の小学生 やめられない？とまらない？	
総合的な学習	福祉について知ろう	福祉について学ぼう	和歌山県について調べよう	
外国語活動				
特別活動	学級活動	安心・安全のルールづくり 自分のいいところを見つけよう	今年の夏はどんな色 がんばり賞をあげよう 2年生を楽しませよう 命の授業	『二分の一成人式』をしよう 『10歳記念会』をしよう
	児童会活動		人権集会 なかよし集会	6年生を送る会
	学校行事	春の遠足	観劇	

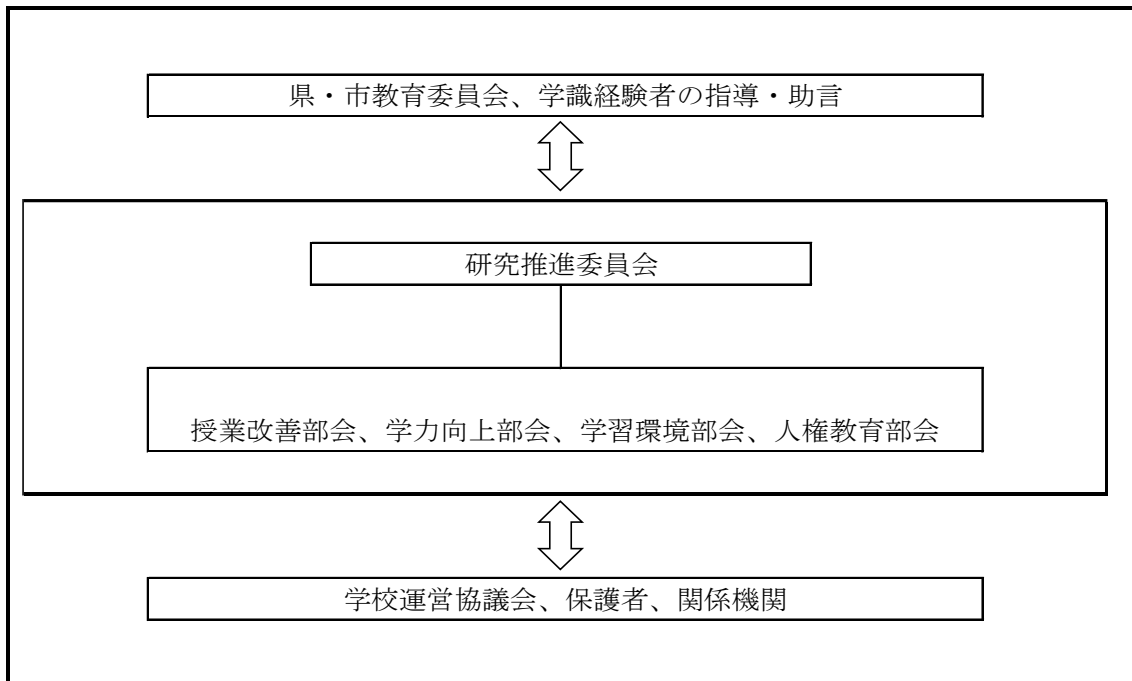
5 学年 人権教育年間指導計画例 変更版 ※ ～付け足す単元 一削除する単元

小学校	1 学期	2 学期	3 学期	
各教科	国	なまえつけてよ きいてきてきいてみよう	たずねびと よりよい学校生活のために	大造じいさんとガン ずいせんします この本、おすすめします
	社	世界から見た日本 さまざまな土地のくらし	これからの食糧生産 日本の貿易とこれからの工業生産 くらしや産業を支える工業生産 情報をつくり、伝える	環境とわたしたちのくらし 自然災害から人々を守る
	算			
	理	ヒトのたんじょう	花から実へ ふりこのきまり	もののとけ方
	音	Believe すてきな一歩	静かにねむれ こげよマイケル	ありがとうの花
	図	お気に入りのマスキナー	ルームプレート	だんボールで、試して、つくって
	家 体	わたしの生活、大発見	ご飯とみそ汁 不安やなやみがあるとき	気持ちがあがる家族の時間 犯罪被害の防止
道徳	転校生がやってきた ノンステップバスでのできごと	「折り紙大使」～加瀬三郎 心のレシーブ	その遊び方、だいじょうぶ?	
外国語活動	Hello, friends	He can bake bread well.	Welcome to Japan	
総合的な 学習	「都道府県調べ」 食生活について考えよう	手話教室 認知症サポーター養成講座 調べてみよう! 産業の秘密 調べてみよう。森林の秘密	SDGsを勉強して、今自分ができごと たった一つの地球	
特別 活動	学級活動	自分のいいところ見つけよう 仲間づくり 一人ひとりの大切な役割	学級でやってみたいことは 友だちのよさを再発見しよう 一人ひとりの大切な役割	一人ひとりの大切な役割
	児童会活動		人権集会 なかよし集会	6年生を送る会
	クラブ・ 委員会	異年齢集団の交流を深め、共通の興味・関心を追究する活動		
	学校行事	春の遠足	音楽鑑賞	卒業式

6 学年 人権教育年間指導計画例 変更版 ※ ～付け足す単元 一削除する単元

小学校	1 学期	2 学期	3 学期	
各教科	国	聞いて、考えを深めよう 私たちにできること	みんなで楽しく過ごすために やまなし いちばん大事なのは	今、私は、ぼくは 海の命
	社	わたしたちの願いと政治のはたらき わたしたちのくらしと憲法と政治のしくみ	室町の文化と人々のくらし 今に伝わる室町の文化と人々のくらし 天下統一と江戸幕府 戦国の世の統一 武士による政治の安定 江戸の社会と文化・学問	明治の新しい国づくり 明治・大正時代を生きた人々 国力の充実をめざす日本と国際社会 新しい日本へのあゆみ 世界のなかの日本とわたしたち
	算			
	理	ヒトや動物の体 生物どうしのつながり	大地のつくりと変化 水よう液の性質	自然とともに生きる
	音	明日という大空	ふるさと	日本と世界の音楽に親しもう 越天楽今様 旅立ちの日に
	図	見つけたよ、わたしのお気に入りの場所	見つけたことを話してみよう みんなのお話、始まるよ	伝え方をたのしもう 夢の新製品
	家 体	朝食から健康な一日の生活を 命の授業	まかせてね 今日の食事 感染症の予防	あなたは家庭や地域の宝物 地域の保健活動
道徳	白旗の少女	義足の聖火ランナー	東京大空襲の中で	
外国語活動	Let's go to Italy.	summer vacation in the world	My Future, My Dream	
総合的な 学習	防災について学ぼう	ザ・修学旅行 ・修学旅行のパンフレットを作ろう	世界をもっとよく知ろう	
特別 活動	学級活動	学校のリーダーとして 心をひとつに	経験の段差をうめよう 友だちのよさを再発見しよう 命の授業	卒業に向けて 6年間を振り返ろう
	児童会活動	1年生を迎える会	人権集会 なかよし集会	6年生を送る会
	クラブ活動	異年齢集団の交流を深め、共通の興味・関心を追究する活動		
	学校行事	春の遠足	修学旅行	お別れ遠足 卒業式

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



○関連資料

(別添2) 人権教育全体計画

令和5年度 人権教育の学校における全体計画

山崎小学校

- ・日本国憲法
- ・人権関係諸条約・法律
- ・教育基本法
- ・学習指導要領
- ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律

学校の教育目標
 なりたいたい自分に向かって、学び挑戦し続ける人の育成

児童の実態
 明るく活動的な子どもが多く、学習に対する意欲・関心はあるが、生活体験に乏しく、相手との関係をうまく持てない子がいる。

保護者の願い
 学習や運動に積極的に取り組み、友達と仲よくして欲しい。

地域の実態と願い
 住宅地が多く、年々人口が増加している。学校教育に対する期待や関心が高い。児童の健やかな成長を願っている。

人権教育の方針
 人間尊重の精神をあらゆる機会と領域において養うとともに、科学的・合理的なものの見方、考え方を培い、互いに人権を尊重し、協力し合う意識・態度を育む。

人権教育の重点目標
 人権の意味を正しく理解し、人権を尊重する子どもを育てる。

- 指導の重点**
- ・互いに生命を大切にし、人権を尊重する子どもを育てる。
 - ・身の周りの不合理や矛盾に気づき、それらを解決できるように公正で合理的なものの見方、考え方のできる子どもを育てる。
 - ・民主的な集団づくりを通して、仲間と協力していく子どもを育てる。

各教科における人権教育	
国語	・文学作品を通して心豊かな人間性を養う。 ・話す・聞く活動を通して、思いを伝えるための語彙の拡充を図るとともに、相手の立場に立った考え方を養う。
社会	・社会生活について理解を図り、その意味を考えることで、社会の構成員として必要な公民的資質を養う。 ・我が国と世界のつながりを理解し、平和な国際社会の実現について考え、国際協調の精神を養う。
算数	日常の事象について見通しをもち、科学的・合理的な見方を働かせ、筋道を立てて考える能力を養う。
理科	観察や実験を通して、科学的能力を養うとともに、自然を愛し、生命を尊重する態度を養う。
生活	一人ひとりが生き生きと活動することを通し、生活上必要な技能を身に付けさせるとともに豊かな心を養う。
音楽	・合唱や合奏を通して、協力の大切さを知り、よりよい演奏のために進んで協力しようとする態度を養う。 ・表現及び鑑賞の活動を通して豊かな情操を養う。
図工	造形活動や美しいものに触れることにより表現の喜びを味わい、豊かな情操を養う。
家庭	家族や地域社会の一員として、家庭や地域社会をよりよくしようと実践する態度を養う。
体育	多様な運動を通して、体力を養うとともに、協力することの大切さを知り、進んで協力しようとする態度を養う。

各学年の重点目標	
第1学年	だれとでも仲よくし、友だちを大切にすることができる。
第2学年	相手の気持ちを考え、友だちを大切にすることができる。
第3学年	友だちのよいところを認め、思いやりをもって行動することができる。
第4学年	相手の気持ちを考え、お互いの良さを認め助け合うことができる。
第5学年	自分や友だちの良さを知り、思いやりの心を持って互いを高めあうことができる。
第6学年	思いやりの心を大切に、共に励まし合い助け合うことのできる仲間づくりを進める。
ひまわり	友だちと仲良くすることができる。

道徳・特別活動における人権教育	
道徳	豊かな心を持ち、よりよく生きるための道徳性を育む。
外国語活動	言語や文化について体験的に理解を深め、主体的にコミュニケーションを図る態度を養う。
総合的な学習	具体的な活動や体験を通して一人ひとりが生き生きと活動し、豊かな心を育てる。
特別活動	児童の自発的・自主的な活動を通して、自主的・実践的な生活態度と社会性を養う。 ・学級活動 ・児童会活動 ・クラブ活動 ・学校行事

他の教育活動との連携
交流教育
 高齢者や障害のある人との交流を行い、ともに支え合う意識を育てる。
生徒指導
 基本的な生活習慣を充実し、健全な生活態度を育成する。

家庭・地域社会との連携
 人権や子育てに関する情報提供・広報活動により開かれた学校づくりに努める。

学校間の連携
 保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲・聾・特別支援学校間での指導等に関する情報交換を行う。

教職員の研修
 ・子どもの実態を把握し、共通理解を図る。
 ・人権問題を学び、自らの人権意識を高める。
 ・参加体験学習を取り入れるなど指導方法等の工夫・改善に努める。